

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	平成29	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	5	年間 （1年未満は 切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	A	型
④日本側拠点機関名（和文）	東北大学大学院農学研究科							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	農学研究科・教授・高橋英樹							
⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
東北大学大学院医学系研究科、東北大学大学院歯学研究科 東北大学大学院薬学研究科、東京大学、神戸大学								
⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと）	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）	
拠点機関	15	32	1	36	1	85	0	
協力機関・協力研究者	10	3	0	3	0	16	0	
合計	25	35	1	39	1	101	0	
⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
所属・職	専門分野			研究交流での役割				
東北大学大学院農学研究科・名誉教授	動物栄養生化学			平成30年度まで本事業の実施者であり、共同研究の推進アドバイザーとして参加				
⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			日本側参加者として一体的な協力体制を確保する方法			
該当なし								

2. 経費

事業の型 A 型				
①当該年度の本事業による経費の支出				
経費内訳	金額 (単位:円)	備考		
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	3,270,760		
	外国旅費※1	8,037,292		
	謝金	0		
	備品・消耗品購入費	1,262,098		
	その他経費	885,661		
	不課税取引・非課税取引 に係る消費税 ※2	44,189		東北大学にて一部負担
	計	13,500,000		
業務委託手数料	1,350,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。		
合計	14,850,000			

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)			
該当なし			
③ 本 事 業 の 旅 費 に よ る 研 究 者	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額(単位:千円)	9,001	
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額(単位:千円)	日本→日本以外の渡航	0
		日本以外→日本の渡航	0
		日本以外→日本以外の渡航	0
(単位:千円) ④ B 型 の 研 究 者 の 旅 費 に よ る 総 額	日本または相手国 →日本の渡航	(単位:千円) 左 記 の う ち 、 第 三 国 所 属 の 相 手 国 側 の 旅 費 の 総 額	日本または相手国 →日本の渡航
	日本又は相手国 →相手国の渡航		日本又は相手国 →相手国の渡航
	日本または相手国 →第三国の渡航		日本または相手国 →第三国の渡航
	第三国→ 日本の渡航		第三国→ 日本の渡航
	第三国→ 相手国の渡航		第三国→ 相手国の渡航
	第三国→ 第三国の渡航		第三国→ 第三国の渡航

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤(B型のみ)中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
総額(単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明	
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)		
全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
7,038	4	1,759

3. 共同研究・セミナー							
事業の型 A 型							
①共同研究 (適宜、行を加除すること。)			現在の年度に○を付けること				
共同研究 整理番号	共同研究課題名 (和文)	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目	2年目	3年目	A型のみ	
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓
R 1	食の安全性の飛躍的向上を目指した農免疫国際研究拠点形成	高橋英樹・東北大学 大学院農学研究科・教授	○	○	○	○	○
共同研究の実施状況 (当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)							
共同研究は全体的にみて順調に推移しており、その成果は国際共著論文などとして公開されている。また、若手研究者の共同研究先への派遣と東北大学への受入も計画に当たって実施されたが、コロナウイルスによる新型コロナウイルスの拡大により、年度末に共同研究のためUC-Davisなどへ長期派遣されていた大学院学生は、予定を繰り上げての帰国を余儀なくされた (その後、オンラインシステムによる情報共有で、共同研究を継続できている)。以下に、交流相手国ごとに実施状況を記載する。							
<p>1. アメリカ (テキサスA&M大学、カリフォルニア大学デービス校) : 延べ12名の教員・大学院生が渡航・滞在し、共同研究を実施した。また、カリフォルニア大学にて臨床脂質栄養学に関するセミナーを開催し、共同研究成果の情報共有と、今後の行動研究について討論を行った。また、共同研究の成果が、14報の論文として国際ジャーナル誌 (国際共著論文3報を含む) に発表された。</p> <p>2. オランダ (ワーゲニンゲン大学、ユトレヒト大学) : 延べ14名の教員・大学院生が渡航・滞在し、共同研究を実施した。また、現在、東北大学に建設中の次世代放射光共同利用施設を活用した共同研究について、ワーゲニンゲン大学において重点的な打ち合わせの機会を持つことができた。今後の共同研究のより一層の加速化に繋がると考えられる。また、共同研究の成果が、11報の論文として国際ジャーナル誌 (国際共著論文4報を含む) に発表された。</p> <p>3. 中国 (揚州大学) : 日本側から4名の教員が渡航・滞在し、中国側から3名の大学院生を受け入れて、共同研究を実施した。また、揚州大学において家畜抗病性育種に関するセミナーを開催し、共同研究成果の情報共有と、今後の行動研究について討論を行った。また、共同研究の成果が、国際ジャーナル誌に国際共著論文1報を発表された。</p> <p>4. アルゼンチン (国立乳酸菌研究所) : 日本側から4名の教員・大学院生が渡航・滞在し、アルゼンチン側から4名の教員・大学院生を長期間受け入れて (合計303日間)、共同研究を実施した。この間、共同研究成果の情報共有と、今後の行動研究について討論が行われ、今後の共同研究の活性化が期待された。また、共同研究の成果が、11報の論文として国際ジャーナル誌 (国際共著論文10報を含む) に発表された。</p>							
これらの他に、東北大学において「医歯農学際粘膜炎免疫セミナー2020」を開催し、食の安全性向上を目指した農免疫国際研究拠点形成に向けた取り組みを醸成した。さらに、次世代放射光共同利用施設の農免疫国際研究拠点形成への利用に向け、共同研究先であるワーゲニンゲン大学とアルゼンチン (国立乳酸菌研究所の研究者が参加した、3カ国合同の検討会を、東北大学で開催した。以上の活動および研究成果から、共同研究は順調に進展しているものと判断できる。							
②セミナー (当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。)							
セミナー	セミナー名 (和文)	セミナー名 (英文)	開催地 (国名・都市名・会場)	開催期間 (〇年〇月〇日～〇年〇月〇日 (〇日間))			
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業～食の安全性の飛躍的向上を目指した農免疫国際研究拠点形成～「臨床脂質栄養学セミナー」	JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE Core-to-Core Program "International Conference on Clinical Lipid Nutrition"	アメリカ・デービス市・UC-Davis	2019年11月19日			
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業～食の安全性の飛躍的向上を目指した農免疫国際研究拠点形成～「家畜抗病性育種セミナー」	JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE Core-to-Core Program "International Symposium on New Insights on Animal Nutrition, Breeding and Reproduction"	中国・揚州市・揚州大学	2019年9月26日～9月27日(2日間)			
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業～食の安全性の飛躍的向上を目指した農免疫国際研究拠点形成～「医歯農学際粘膜炎免疫セミナー2020」	JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE Core-to-Core Program "Interdisciplinary Seminar on Mucosal Immunology at Tohoku University 2020"	仙台市・東北大学	2020年2月19日			
セミナーの開催状況 (当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数 (総数、参加国名ごとの参加人数 (本事業経費による負担の有無を問わない)、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)							
(S1)2019年11月19日にカリフォルニア大学デービス校 (UC Davis) において、「臨床脂質栄養学セミナー」を開催した。日本側から6名、UC Davisからは18名の参加で、臨床脂質栄養に関する最先端の研究発表が行なわれ、意義深い議論がなされた。また、今後の協力体制について打ち合わせを行い、共同研究や大学院生を含めた若手研究者の交流の推進について確認した。(実施計画では9月の予定でしたが、双方の都合により11月に変更した)							
(S2)2019年9月26日～9月27日に揚州大学において、「家畜抗病性育種セミナー」を開催した。日本側から4名、揚州大学側からは約40名の参加で、家畜抗病性育種に関する最先端の研究発表が行なわれ、意義深い議論がなされた。また、今後の協力体制について打ち合わせを行い、共同研究や大学院生を含めた若手研究者の交流の推進について確認した。							
(S3)2020年2月19日に東北大学片平キャンパスにおいて、本研究拠点形成事業に参加する東北大学医学、歯学、薬学系研究者が、事業を通して得られた研究成果を確認するための「医歯農学際粘膜炎免疫セミナー」を開催した。本セミナーには、粘膜炎免疫学研究の権威である東京大学医科学研究所教授をアドバイザーとしてお招きし、各研究課題に対する助言を頂いた。昨年度に続き、2度目の開催となった今年度のセミナーは、1年間の研究の進展を確認できる充実した内容であった。							
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況 (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7 (7) 参照のこと。)							
該当なし							
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4 (1) ①参照のこと。)							
該当なし							

4. 研究交流状況

事業の型 A 型										
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)										
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)		
1	アメリカ合衆国	2	6	0	3	0	11			
2	オランダ	4	6	0	2	0	12			
3	中華人民共和国	2	2	0	0	0	4			
4	アルゼンチン	1	0	0	3	0	4			
計		9	14	0	8	0	31			
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)										
該当なし										
②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)		
1	中華人民共和国	0	0	0	3	0	3			
2	アルゼンチン	0	0	0	3	0	3	3(大学院生3)		
計		0	0	0	6	0	6			
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)										
該当なし										
③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣元)		国名(派遣先)		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし									0	
計				0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)										
該当なし										
④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣元)		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計			
1	オランダ	1	0	0	0	0	1			
2	中華人民共和国	0	0	0	3	0	3			
3	アルゼンチン	1	0	0	3	0	4			
計		2	0	0	6	0	8			
⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣先)		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計			
1	中華人民共和国	2	2	0	0	0	4			
2	アルゼンチン	1	0	0	3	0	4			
計		3	2	0	3	0	8			

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	アメリカ合衆国
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：テキサスA&M大学 英文：Texas A&M University	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	College of Agriculture and Life Sciences・University Distinguished Professor・Guoyao WU
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：カリフォルニア大学デービス校 英文：University of California, Davis	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポストドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	9	2	0	0	0	11	
協力機関・協力研究者	5	1	0	0	0	6	
合計	14	3	0	0	0	17	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は○と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：-	⑨相手国のマッチングファンド (=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			※参考： 日本側研究交流経費 ¥13,500,000		
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1					
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×					
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×					
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-					
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×					
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	United States Department of Agriculture Agriculture and Food Research Initiative: Regulation of water and ion transport by arginine in porcine conceptuses.	3,180	2020/9/10	米ドル	1ドル = 106円
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×					
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計	3,180			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません (EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	オランダ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: ワーゲニンゲン大学	
英文: Wageningen University	
③コーディネーター 所属部局・職名・氏名(英文)	Wageningen Instiyude of Animal Science・Professor・Johan LEEUWEN
④協力機関名(和文および英文)(行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: ユトレヒト大学	
英文: Utrecht University	

⑤参加研究員数(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	13	5	3	0	0	21	
協力機関・協力研究者	4	0	0	2	0	6	
合計	17	5	3	2	0	27	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				※参考: 日本側研究交流経費		¥13,500,000	
負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと)		支援助機関等名		ファンド・プログラム名		日本円換算額(単位:千円)	換算レート日(例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
負担なし: ×		A型のみ:パターン種別		パターン1か2を記入すること		1			
(1)日本側研究者の相手国内滞在費		×							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃		○		Wageningen Institute of Animal Science 学内資金		60	2020/9/10	ユーロ	1ユーロ = 125円
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費		○		Wageningen Institute of Animal Science 学内資金		54	2020/9/10	ユーロ	1ユーロ = 125円
(4)相手国側研究者の相手国内旅費		×							
(5)相手国側研究者の研究経費		◎		Graduate School of Experimental Plant Sciences 学内資金		700	2020/9/10	ユーロ	1ユーロ = 125円
		○		Wageningen Institute of Animal Science 学内資金		630	2020/9/10	ユーロ	1ユーロ = 125円
(6)相手国開催のセミナー開催経費		-							
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		-		合計		1,444			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSCRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	中華人民共和国
②拠点機関名(和文および英文)	
和文:揚州大学 英文:Yangzhou University	
③コーディネーター 所属部局・職名・氏名(英文)	College of Animal Science and Technology・Professor・Guoqi ZHAO
④協力機関名(和文および英文)(行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究員数(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	15	0	0	9	0	24	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	15	0	0	9	0	24	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)			
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)		
該当なし			
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:×		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額(単位:千円)	換算レート日(例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること							
	2						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	○	Ministry of Agriculture of the People's Republic of China	13th five year plan of National bee industry system comprehensive experimental station	288	2020/9/10	元	1元 = 15.5円
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	○	Ministry of Agriculture of the People's Republic of China	13th five year plan of National bee industry system comprehensive experimental station	180	2020/9/10	元	1元 = 15.5円
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	Ministry of Agriculture of the People's Republic of China	13th five year plan of National bee industry system comprehensive experimental station	554	2020/9/10	元	1元 = 15.5円
(6)相手国開催のセミナー開催経費	○	Ministry of Agriculture of the People's Republic of China	13th five year plan of National bee industry system comprehensive experimental station	20	2020/9/10	元	1元 = 15.5円
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		1,042			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSCRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	アルゼンチン
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 国立乳酸菌研究所 英文: Centro de Referencia para Lactobacilos	
③コーディネーター 所属部局・職名・氏名(英文)	Laboratory of Immunobiotechnology・Professor・Susana ALVAREZ
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳 (重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポストドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	7	4	0	8	0	19	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	7	4	0	8	0	19	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,500,000			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	2						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	○	Secretaría de Ciencia, Arte e Innovación Tecnológica	Immuno-hematopoietic recovery of chemotherapy immunocompromised hosts by lactic acid bacteria. Impact on the immune-coagulative response	396	2020/9/10	アルゼンチンペソ	1アルゼンチンペソ=1.5円
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	Fondo para la Investigación Científica y Tecnológica	Modulation of mucosal antiviral immune responses in malnourished immunocompromised hosts by immunobiotic lactic acid bacteria. Study of their mechanisms of action by genomics tools	528	2020/9/10	アルゼンチンペソ	1アルゼンチンペソ=1.5円
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	○	Fondo para la Investigación Científica y Tecnológica	Modulation of mucosal antiviral immune responses in malnourished immunocompromised hosts by immunobiotic lactic acid bacteria. Study of their mechanisms of action by genomics tools	448	2020/9/10	アルゼンチンペソ	1アルゼンチンペソ=1.5円
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		1,372			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。